令和６年度　第４回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）

期日：令和６年１１月１９日（火）
１５：００～１７：００
場所：有田工業高校　会議室

会次第

１　開　会

２　学校長挨拶

これまでの第１回から第３回までの学校運営協議会での報告事項、本日の議題にある①部活動の実績について、②SAGA コラボレーション・スクール事業の現状について、③学校評価の中間評価についての３つの報告事項をもとに、「SAGA コラボレーション・スクール事業の更なる充実にむけて」というテーマでの運営協議会の委員による活発な意見交換をお願いする。また、現在の学校の状況や高校入試に関する中学生の進路希望調査の状況について報告し、挨拶とした。

３　議事（進行は会長）

（１）説明・報告事項

①部活動（上半期）の実績について

・全日制及び定時制の各部活動、各種コンテストの実績について報告を行った。

②SAGA コラボレーション・スクール事業の実施状況について

・取組テーマである「地域を愛し地域に愛される学校づくり」と全国募集の推進について、現在の学校としての課題及び目標と成果指標の説明を行った。

意見：(委員 A)資料７ページ（３）の「県内外からの志願者増の取組」について、課題でも上がっているが、なかなか厳しい状況にある。何か新しい取り組みが必要であるのかどうか、委員のみなさんと議論できればと思う。

回答：(事務局)前回の協議会で報告をしたが、地域みらい留学の広報活動として学校魅力化コーディネーターの協力のもと、今年度は広報活動としてインスタグラムの更新を頑張っている。5月下旬ぐらいから動かし始めて、今のところ250名ほどフォロワーが増えている。今年度新たに広報活動に力を入れて頑張っている。

意見：(委員 A)取り込みという形での広報活動はあると思うが、地域みらい留学３年目となるので、どのように地域みらい留学で入学した生徒たちが進学や就職に向けて指導を受けてコーディネートされているのかを知りたい。

回答：セラミック科長及びデザイン科長より、進路希望状況について説明。
（＊個人情報管理の観点からその内容については割愛する）

意見：(委員 B)資料９ページの「県内外からの志願者増」の取組内容に九州管内の窯元のある教育委員会・中学校への訪問が記載されているが、熊本の焼き物の産地である荒尾市の小岱焼が入っていないが、どのような経緯で訪問先を決められたのか。

回答：(事務局)熊本県荒尾市の小岱焼は、今年度の訪問先から外した。理由は、その地域にある高校に、デザイン科に類する学科があり、前任者からの引継ぎで、小岱焼の地域の中学校への訪問は取りやめている。

意見：(委員 A)有田焼業界は需要が増加しているものの、人手不足や職人不足が課題となっています。留学生が有田に来ているので、何名かでも、地域と連携して新たな担い手の確保のために、どんな生徒も受け入れできるというアピールも今後はできるのではないかと思う。

意見：(委員 C) インスタグラムの運用について、現在のフォロワーの年齢層は把握されているか。私もフォローしているが、現時点でのフォロワーは地元の方が多いと思

う。高校だけだと広がりが難しいと思うので、年代を分けて対応した方がいいのではと思う。

回答:(事務局)フォロワーの中身はどのような人たちがフォローしてるのかはリサーチができてない。いろんな行事ごとに魅力を発信している状況で、年齢層の方は様々な方がフォローをしてくださっている。年齢の区分などをして今後の発信の課題で進めていきたい。

意見:(委員 C) 先生たちはプロフェッショナルではないので、運用が難しいのではと思う。外部委託はできないのか。

回答:(事務局)県主催のインスタグラム研修を受講している。生徒とインスタグラムを運用できるようにしたいと考えており、外部に委託ではなく、学校内で魅力発信を目指している。

意見:(委員 C) 外部に委託できないのはどうしてなのか聞きたい。

回答:(事務局)教育委員会や高校と足並みを揃える必要があるため、すぐに対応するのは難しい。広報活動にブレイクスルーを起こすためには、既存の取り組みを踏まえつつ、教育委員会との話し合いが必要である。広告はプロに任せるのが最善だが、原資についても慎重に検討する必要がある。インスタフォロワー層は、 地域、在校生や保護者など従来のユーザーがフォロワーとして流入している。また、地域みらい留学イベントで PR を行い、新たな層のフォロワーが増えた。イベント毎に段階的に増加した層は、地域みらい留学に興味を持った新しい層である可能性が高い。ユーザーの情報精査は現状では難しいが、地域みらい留学に興味を持つ層が一定数存在していると推測できる。

（２）協議事項

①学校評価計画の中間評価について（全日制）

・学校評価の中間評価を、４月の計画段階で成果指標を立てた校務分掌主任による中間評価について報告を行った。中間評価は、学校ホームページにて公開中。

・最終評価では、「学校関係者評価書」作成のために、学校運営協議会の委員に意見をいただく予定であることを連絡。

②学校評価計画の中間評価について（定時制）

・出席率の改善：定時制で出席率９０％を目指し、生徒が安定して登校できるように支援している。

・進路支援：卒業年次の生徒には、進学・就職支援を行い、推薦入試や就職内定取得の成果が出ている。

・心の教育と健康管理：いじめ防止や健康管理にも力を入れており、担任が生徒の日常生活のチェックを行うなど、家庭とも連携している。

・特別支援教育：生徒の状況を全職員で共有し、支援体制を整えている。

・地域との連携：文化祭の際には、著名なアーティストの協力を得て、生徒全員で作品を制作する活動を行い、充実した体験を得られた。

４　意見交換

（１）SAGA コラボレーション・スクール事業の更なる充実にむけて

① 説明

・学校運営協議会の実施回数について各グループの意見交換で意見を求める。

・学校魅力化評価システムアンケートの結果より、「自分の学校を中学生に勧めることができる」と考える生徒の割合について説明した。

・佐賀県教育委員会が公表している「中学生の入学希望状況調査」の結果について説明した。

② グループでの意見交換と報告

報告:(グループ A)

・学校運営協議会の開催回数: 6 回から 3 回に減らす案は減少幅が多すぎるため、4 回が適当ではないかとの意見があった。

・学校評価計画において、生徒と意見交換を重ねて中間評価を行い、総括するプロセスが重要との意見があった。
・コラボレーション・スクール事業の深化：活動内容を増やすのではなく、質を高めていく方向が良いという意見が出た。それぞれの学科が地域と連携しながらPRしている点は評価されるものの、学校全体としての魅力が十分に伝わっていない点が指摘された。
・学科横断的な取り組みの提案：各学科が協力し、全体でイベントやワークショップを実施することで、他の学科も含めて学べる場を提供することがアピールにつながるのではないかとの意見があった。
・地域みらい留学の利用とリサーチ：卒業後の進路や将来のビジョンを明確に示すことで、入学希望者に対して学校の魅力を発信できるようにすることが提案された。また、未来留学制度の利用者だけでなく、学校全体としての進路保証を強調することも重要であるとの意見があった。
・地域の歴史と伝統の継承：地域自体が職人の技術で支えられてきた背景があるため、学校もこの地域の伝統を尊重し、技術や経験を積むことの重要性を強調すべきとの意見があった。

報告：(グループB)
・学校運営協議会の開催回数：年間4回程度、3ヶ月に1回の頻度で開催するのが妥当ではないかという提案があった。四季ごとに協議会を開くことで、学校運営に関する適時適切な意見交換を行いたいとの意見があった。
・焼き物産業の教育に関する強化の必要性:SAGA コラボレーション・スクール事業において、焼き物産業に関連する教育の強化が求められるとの意見があった。特に、石膏型やローラーマシンといった技術を教える必要がある。石膏型・ローラーマシンに関しては、現状のカリキュラムでは時間が限られている（約10時間程度)。現在、授業でのメインはろくろや登り窯であるが、生徒からも「もっと学びたい」との声がある。
・教育資源や教員の不足について：石膏型やローラーマシンに関する専門的な指導ができる教員が少ない可能性があると指摘された。必要であれば地域の方々の協力を仰ぎ、地域の焼き物職人や技術者に指導を依頼することも検討する必要があるのではないかという意見があった。
・産業的なPRと学校の特色化：焼き物産業を学ぶことで将来の職業としても生かせるよう、産業面でのPRも強化が必要であるとの意見があった。
・佐賀県内外の他の地域の生徒にも魅力を感じてもらえるように、学校の特色としてPR を充実させたい。これらのポイントを踏まえ、運営協議会でのさらなる話し合いや、カリキュラム編成の見直しが検討されることが望ましい。また、地域の方の協力を得ながら、実際の産業で必要なスキルの習得を推進していくことが、学校と地域社会双方にとってのウィンウィンの形を実現する道筋となりそうであるとの意見があった。

報告：(グループC)
・学校運営協議会の開催回数：3回または4回の実施回数が提案された。
・来年度に向けた新たな取組の案：学校のインスタグラム更新チームを生徒に募集をかける。生徒のインスタグラム更新チームを編成し、生徒目線で学校の魅力を発信してはとの意見があった。生徒の学校への所属意識を高め、自分の学校への愛着や誇りを持たせることにもつながる。他校の事例も参考に検討してはどうかとの意見があった。

報告：(グループD)
・学校運営協議会の開催回数：学校評価の結果が出た時点で、会議を実施することが良いのではないかという意見があった。また、負担軽減のために、会議回数を集中させて（例えば3回）日程を予め決めて行う方法も提案された。

・体験入学の充実：志願者数が減少傾向にあることを受け、体験入学をもっと充実させる必要があるとの意見があった。親も参加できる形にすることで、親にとっても面白く、魅力的な学校だと感じてもらうことが大切という指摘があった。
・町内でのコラボレーション事業の充実：例えば有田町の工業系企業での体験を通じて、ものづくりを直接感じる機会を生徒に提供してはどうかという意見があった。２月の地域学習の日には、卒業生が活躍している町内企業や地域の様子を生徒に体験させることで、地域とのつながりを感じ取ってもらうのが良いという意見もあった。
・学校の活動の充実：運動系や文化系など、多岐にわたる活動を行っている学校のため、今後も充実した形で取り組んでいくことを目指す。

③ 全体での意見交換

意見：(委員C)学校運営協議会の開催回数：会議は現在の進行ペースだと少なくとも6回は必要だと考える。少ない回数だと議論が深まらず、内容が薄くなってしまう可能性がある。
・委員の活躍時間確保：会議の時間配分を見直し、他の委員も積極的に力を発揮できるような時間を増やすべき。
・イベント運営とノウハウの共有：イベントの運営に関する知識やノウハウを、運営がうまく進められている新社会人向けの合説から学ぶことが有効であり、それを参考に自分たちのイベントにも反映するべきである。
・地域のイベント参加の重要性：現状では地域イベントに参加する学生が少ないため、地域との関係を深め、留学生の満足度向上にもつながるよう参加を促すべきである。
・著名デザイナーとの協力や支援の拡大：世界的に活躍しているデザイナーや人材と協力する機会である、例えばクリエイティブ・レジデンシー・有田（CRA）などがあることから、生徒たちをそういう場所にもっと派遣していく取組も必要ではないか。
・これらを踏まえて、学校運営協議会の会議やイベント運営の方針についてさらに議論を進め、具体的なアクションプランを立てていくことが重要だと考える。

まとめ：(校長)さまざまなご意見ありがとうございました。ご提示いただきました。ご意見をもとに、コラボレーション・スクール事業のテーマである「地域を愛し地域に愛される学校づくり」のさらなる充実に向けて、学校の魅力向上に取り組んでいきたいと思います。貴重なご意見本当にありがとうございました。

５　諸連絡

（１）SAGA 学校魅力化フォーラムについて
・１２月２３日に実施される「SAGA 学校魅力化フォーラム」についてチラシを配布し、案内した。

（２）第５回学校運営協議会について
・１２月後半に実施予定であること、日程調査の協力をお願いした。

６　閉　会